

北林議員、牛尾議員が聴く 身近な取組みから 環境問題を考える

表紙写真／話をお聴きした皆さん

広島中央エコパークが本格稼働に入りました。この施設は、廃棄物を1,800℃の高温で溶かすことから、焼却灰が出ない環境に配慮した施設です。今回、身近なところから環境問題に取り組まれている「エコINNくろせ」の皆さんにお話を伺いました。

プロフィール



エコINNくろせ
会長
西濱 忠孝さん



エコINNくろせ
監査
新田 博海さん



エコINNくろせ
事務局長
小原 義昭さん

環境へのお陰様・ありがとうございますの 気持ちを忘れてはいけませんね

Q 「エコINNくろせ」発足の理由を教えてください。

西濱会長 一般財団法人広島県環境保健協会の研修に参加したことがきっかけです。暮らしと
いつ身近なところから、環境問
題に取り組むという事です。

くろせ」を立ち上げました。意味は、「工」が黒瀬に宿る」です。

Q 「エコINNくろせ」として特徴のある活動は何ですか。

西濱会長 最初の活動は、「自転車キャラバン隊行動デー」でした。10人ずつの班を3グループつくり、自転車に幟を立てて

町内を回ります。きっかけは、身近な買い物くらい、車を使わないで自転車で行こうということから始まっています。これは今も続いています。

小原事務局長 ※もみ殻クン炭作りも続けています。これは、もみすり後のもみ殻の始末に苦

労していたのですが、広島大学の安藤忠男先生との出会いから、これを炭にして土に還元し、CO₂削減に貢献しようということにしたためです。燻炭機も既製品ではなく、工夫して鉄工所に製作をお願いし、経費を抑えています。(令和3年度の実績は下欄を参照ください。)

新田監査 地元の小学生と自然観察を行う「保光川ハウマツチ」の取組みも面白いと思います。初めに、広島大学の学生さんたちから川に住む生き物や環

※もみ殻クン炭作りの実績(令和3年度)

参加者が8名、製作量が2,172kgであり、CO₂削減量に換算すると2,650kgになります。なお、ガソリンに換算すると1,152リットルです。



②



③



①

- ① 取材風景
- ② 自転車キャラバン隊
- ③ もみ殻クン炭作り
- ④ 保光川ハウマッチ
- ⑤ エコクッキング
- ⑥ 蛍かご作り



④



⑤



⑥

境の話聞いて、身近な小川を観察する。元の会場に帰る時は、空き缶やごみを拾います。子どもたちにも好評ですよ。

西濱会長 子どもたちと一緒に麦を植えて、麦踏みをやったり、その麦を刈り取り、石つすで挽いて粉にします。その粉を練ってパンケーキやクッキーを焼く、「エコクッキング」で地産地消の大切さを学びます。麦藁は捨てるのではなく、蛍かごの材料になります。蛍かご作りは、東広島市生涯学習フェスティバルのようなイベントで実演したりしています。

Q 行政に知っておいて欲しいことはありますか。

小原事務局長 活動するための道具や書類を置く場所がなく、今は自宅に置いていますが、苦労しています。その他、事業開始の道具を揃えるための補助金はあるものの、その道具を修理することには補助がありません。燻炭機購入補助は最初1回だけありましたが、火を使うので数年使うと穴が開いてしまいま

す。しかし、その修理費用は自分持ちです。行政の助けがあるところとありがたいところですよ。

Q 今後取り組んでいく課題や活動を通じての気付きはありますか。

小原事務局長 食品ロスの問題については、これからやろうと思っと思っています。新しい会員さんが入って来られれば、新たなテーマでの取組みも可能になると思います。

新田監査 会員を増やしていきたいのですが、定年延長の影響から、このような活動に参加するという熱意が年々下がってきていると感じています。社会活動を行う上での課題ですね。

西濱会長 こうして長い間、活動が続けてこられたのは、毎月第1水曜日を定例会と定め、課題検討や活動報告、そして新たな計画を練るといったことをやってきたからだと思えますね。活動の幅を広げるためにも、新規の会員さんがもっと増えてくれることを願っています。